

言葉の「距離」を考える－言語戦略・習熟度・地域変異の比較と尺度化－
2026年8月1日（土）（於：西南学院大学大学院）

CEFRレベルを特徴づける法・時制使用は何か

西南学院大学大学院フランス文学専攻博士後期課程
山口奈美
s23dd001@seinan-gakuin.jp

発表の流れ

1. 研究背景
2. リサーチクエスチョン
3. 研究手法
4. 分析結果
5. まとめと考察
6. 今後の課題

発表の流れ

1. 研究背景

□ プロファイリング研究

2. リサーチクエスチョン

3. 研究手法

4. 分析結果

5. まとめと考察

6. 今後の課題

- CEFR (Conseil de l'Europe, 2001)
… A1, A2, B1, B2, C1, C2
- CEFRに準拠した学習者の言語能力プロファイリング研究

❖ フランス語

- Beaccoらによる **Référentiels**
(Beacco *et al.*, 2005; Beacco & Porquier, 2007; Beacco *et al.*, 2008 ;
Beacco *et al.*, 2011 ; Beacco *et al.*, 2004 ; Riba, 2016)
⇒ 各レベルで期待される言語項目
- Northによる **Inventaires linguistiques des contenus clés des niveaux du CECRL** (North, 2015)
⇒ 各レベルの授業で扱う重要項目の提案

いずれも専門家の知見・合意が中心
学習者データに基づく体系的な検証は限定的

- CEFR (Conseil de l'Europe, 2001)
… A1, A2, B1, B2, C1, C2
- CEFRに準拠した学習者の言語能力プロファイリング研究

❖ 英語

- **English Profile** (<https://englishprofile.org/>)
- **CEFR-J** (<https://www.cefr-j.org/cefrj.html>)

❖ スウェーデン語

- **Swedish L2 Profile** (Volodina *et al.*, 2024)

教材・学習者データに基づく体系的な分析を
もとに構築されたリソース

□ CEFRに準拠した学習者の言語能力プロファイリング研究

❖ フランス語

データに基づいた学習の実態

- Yamaguchi *et al.* (2022) … 教科書データに基づいた法・時制習得研究
- 本研究 … 学習者データに基づいた法・時制習得研究

□ CEFRに準拠した学習者の言語能力プロファイリング研究

❖ フランス語

- **Référentiels**
- **Inventaires linguistiques des contenus clés des niveaux du CECRL**

専門家による期待値

+

データに基づいた学習の実態

- Yamaguchi *et al.* (2022) … 教科書データに基づいた法・時制習得研究
- 本研究 … 学習者データに基づいた法・時制習得研究

発表の流れ

1. 研究背景
 - 2. リサーチクエスチョン**
 3. 研究手法
 4. 分析結果
 5. まとめと考察
 6. 今後の課題
-

RQ1) 各法・時制はどのCEFRレベルで使用され始めるのか？

⇒ 法・時制とCEFRレベルの紐付け

RQ2) どのような質的発達が見られるのか？

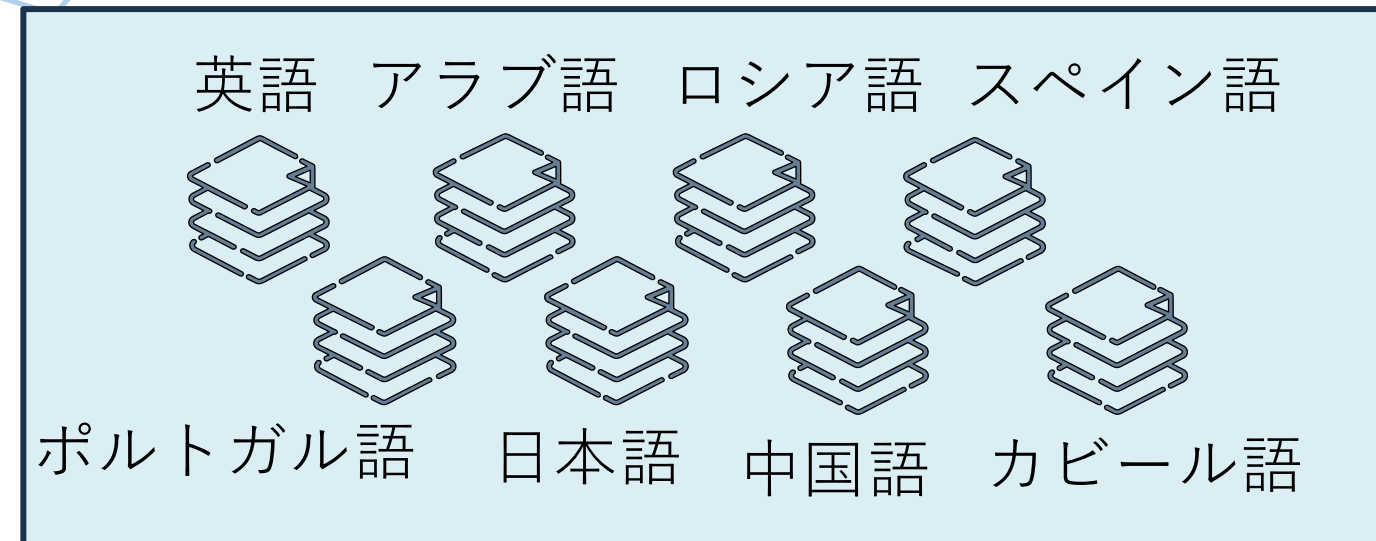
⇒ レベルを特徴づける用法を特定

発表の流れ

1. 研究背景
2. リサーチクエスチョン
3. **研究手法**

 - ☐ 使用データ
 - ☐ 対象とする法・時制
 - ☐ アノテーション
4. 分析結果
5. まとめと考察
6. 今後の課題

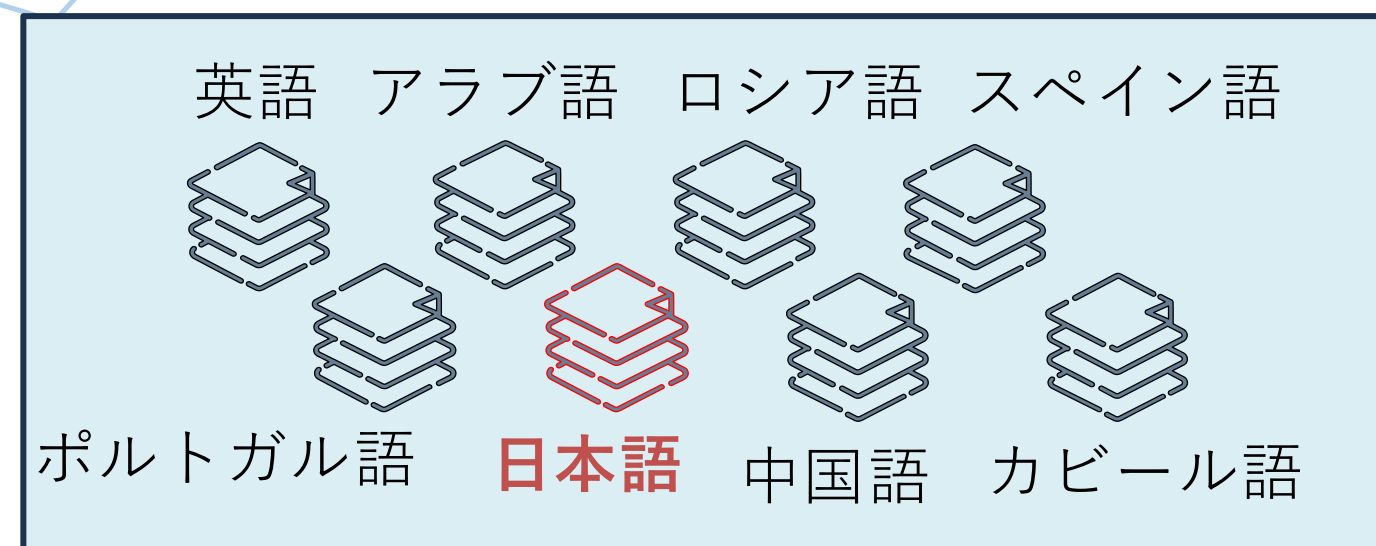
○ TCFLE-8 (Wilkins et al., 2023)



TCFの作文試験から構築された学習者コーパス

- 6569テキスト (581333単語)
- 6レベル (A1, A2, B1, B2, C1, C2)
- 8つの異なる言語を話す学習者のデータ

○ TCFLE-8 (Wilkins et al., 2023)



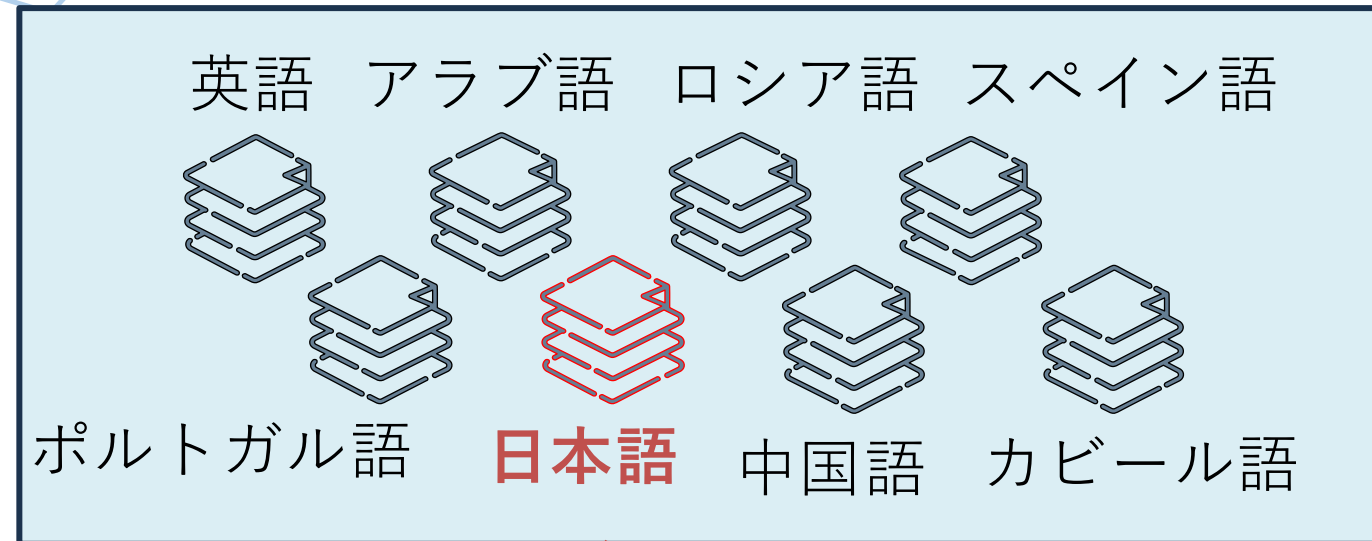
TCFの作文試験から構築された学習者コーパス

- 6569テキスト (581333単語)
- 6レベル (A1, A2, B1, B2, C1, C2)
- 8つの異なる言語を話す学習者のデータ

収録データ

レベル	作文数
A1	8
A2	135
B1	171
B2	170
C1	48
C2	2
計 534	

○ TCFLE-8 (Wilkins et al., 2023)



TCFの作文試験から構築された学習者コーパス

- 6569テキスト (581333単語)
- 6レベル (A1, A2, B1, B2, C1, C2)
- 8つの異なる言語を話す学習者のデータ

収録データ

レベル	作文数
A1	8
A2	135
B1	171
B2	170
C1	48
C2	2
計 534	

分析データ

レベル	作文数
/	/
A2	50
B1	50
B2	50
C	50
計 200	

○ 本研究で用いたデータ



日本語

- 200テキスト
- 4レベル (A2, B1, B2, C)
- 日本語話者学習者のデータ

○ TCFLE-8 (Wilkins et al., 2023)

50テキストの選出方法

- ・ 論証, 意見表明系
- ・ 過去について述べる課題
- ・ 未来について述べる課題

各レベルでできるだけ
バランス良く抽出

の作文試験から構築された学習者コーパス

- 6569テキスト (581333単語)
- 6レベル (A1, A2, B1, B2, C1, C2)
- 8つの異なる言語を話す学習者のデータ

収録データ

レベル	作文数
A1	8
A2	135
B1	171
B2	170
C1	48
C2	2
計 534	

分析データ

レベル	作文数
/	/
A2	50
B1	50
B2	50
C	50
計 200	

○ 本研究で用いたデータ



日本語

- 200テキスト
- 4レベル (A2, B1, B2, C)
- 日本語話者学習者のデータ

- ・ Grevisse et Goosse (2016 : 1069)に基づいて分類
- ・ ただし、現代フランス語でも極めて稀である形式は排除

id	法	時制
<mt1>ind-pres	直説法	現在
<mt2>ind-imp		半過去
<mt3>ind-pc		複合過去
<mt4>ind-ps		単純過去
<mt5>ind-pqp		大過去
<mt6>ind-pa		前過去
<mt7>ind-fs		単純未来
<mt8>ind-fa		前未来
<mt9>cnd-pres	条件法	現在
<mt10>cnd-pass		過去
<mt11>sbj-pres	接続法	現在
<mt12>sbj-pass		過去

id	法	時制
<mt13>imp-pres	命令法	現在
<mt14>inf-pres	不定法	現在
<mt15>inf-pass		過去
<mt16>prt-pres	分詞	現在分詞
<mt17>prt-pass		過去分詞
<mt18>prt-pc		複合過去分詞
<mt19>grn-pres	ジェロンディフ	現在
<mt20>grn-pass		過去
<mt21>pér-fut	迂言的形式	近接未来
<mt22>pér-pass		近接過去
<mt23>pér-pres		現在進行形

① 産出された形を見てタグ付け

- ❑ 学習者が実際に産出した形のうち、**いずれかの活用形に一致する**場合、その法・時制として記録
- ❑ **綴り誤りを含む動詞**はエラーとして扱う。
書きたかったor書くべきだった形を推測してカウントしない

Salut Marc, j'espérè que tu **vas** bien.
Hier, je **suis allé** au centre de sport.
C'était très sympa.
On **va** y **allé** ensemble ce week-end ?

② エラーの有無の確認

- エラーがある場合にはエラータグを付与
- ✓ 綴りの誤り … J'**espèrè**
- ✓ 助動詞の誤り … J'**ai allé**
- ✓ 文脈に沿わない不適切な活用 … Je **aller**
- ✓ 法・時制の誤り（文法的に判断できるもの） … Il faut que tu **vas**

1. 自動でタグ付け

文章中で出現した法・時制を自動で識別、タグ付け

- 単純時制 = stanzaで構文解析 + 語尾などを利用したルール
- 複合時制 = Grew (Guillaume, 2021)を用いた係り受け解析に基づくパターンマッチング

2. 手動で修正

自動タグ付けの結果を目視で確認し、適宜追加・修正

発表の流れ

1. 研究背景
 2. リサーチクエスチョン
 3. 研究手法
 - 4. 分析結果**
-
- ☐ RQ1) 法・時制はどのレベルから？
 - ☐ RQ2) 質的発達は？
5. まとめと考察
 6. 今後の課題

分析結果 – (RQ1) 各形態が産出されたテキスト数の推移

	A2		B1		B2		C	
	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数
<mt1>直説法現在	48	262	49	340	50	409	50	436
<mt2>直説法半過去	6	10	12	23	17	36	20	39
<mt3>直説法複合過去	18	34	20	57	31	100	24	89
<mt4>直説法単純過去	0	0	1	1	1	1	0	0
<mt5>直説法大過去	2	2	1	1	3	3	0	0
<mt6>直説法前過去	0	0	0	0	0	0	0	0
<mt7>直説法単純未来	6	8	12	16	17	26	24	35
<mt8>直説法前未来	0	0	0	0	0	0	0	0
<mt9>条件法現在	4	7	14	16	13	17	20	34
<mt10>条件法過去	0	0	0	0	3	3	1	1
<mt11>接続法現在	3	4	3	3	14	15	16	24
<mt12>接続法過去	0	0	0	0	0	0	2	2
<mt13>命令法現在	3	3	8	9	8	9	8	9
<mt14>不定法現在	34	79	46	160	46	248	50	305
<mt15>不定法過去	0	0	0	0	6	6	1	1
<mt16>現在分詞	1	1	0	0	0	0	1	1
<mt17>過去分詞	6	6	7	8	19	26	19	31
<mt18>複合過去分詞	0	0	0	0	0	0	0	0
<mt19>ジェロンディフ現在	1	1	4	4	9	10	10	10
<mt20>ジェロンディフ過去	0	0	0	0	0	0	0	0
<mt21>近接未来	7	15	10	13	11	15	5	10
<mt22>近接過去	0	0	0	0	2	2	1	1
<mt23>現在進行形	0	0	0	0	0	0	1	1

□ 出現・定着レベルの定義

- ✓ 出現 ⇨ 50テキスト中、**3テキスト以上で使用**
- ✓ 定着 ⇨ 50テキスト中、**5テキスト以上で使用**
- ・ 出現頻度ではなく、使用が見られたテキスト数で判定
（特定の個人による結果への影響を防ぐため）
- ・ レベル間を比較し、形式がどのように広がっていくかを
一貫した基準で捉えるための、操作的な定義

分析結果 – (RQ1) 閾値を用いた産出開始レベルの判断

	A2		B1		B2		C	
	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数	テキスト数	使用数
直説法現在	48	262	49	340	50	409	50	436
直説法半過去	6	10	12	23	17	36	20	39
直説法複合過去	18	34	20	57	31	100	24	89
直説法単純過去	0	0	1	1	1	1	0	0
直説法大過去	2	2	1	1	3	3	0	0
直説法前過去	0	0	0	0	0	0	0	0
直説法単純未来	6	8	12	16	17	26	24	35
直説法前未来	0	0	0	0	0	0	0	0
条件法現在	4	7	14	16	13	17	20	34
条件法過去	0	0	0	0	3	3	1	1
接続法現在	3	4	3	3	14	15	16	24
接続法過去	0	0	0	0	0	0	2	2
命令法現在	3	3	8	9	8	9	8	9
不定法現在	34	79	46	160	46	248	50	305
不定法過去	0	0	0	0	6	6	1	1
現在分詞	1	1	0	0	0	0	1	1
過去分詞	6	6	7	8	19	26	19	31
複合過去分詞	0	0	0	0	0	0	0	0
ジェロンドイフ現在	1	1	4	4	9	10	10	10
ジェロンドイフ過去	0	0	0	0	0	0	0	0
近接未来	7	15	10	13	11	15	5	10
近接過去	0	0	0	0	2	2	1	1
現在進行形	0	0	0	0	0	0	1	1

- 産出レベル …
- 定着レベル …

分析結果 – (RQ1) レベルの調整

出現レベル？

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

□ A2における例

- À mon avis, il est très bon que des personne âgées **habitent** ensemble. (A2_002_s)
- Je pense donc il faut que l'on **discute** plutôt sur les végétariens qui ne mangent que... (A2_007_s)
- je souhaite que beaucoup de pays **accepte** la sieste pour travailler plus efficace ! (A2_009_s)

⇒ 接続法を意識して選択したか明確に判断できない

分析結果 – (RQ1) レベルの調整

出現レベル？

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

出現レベル ⇒ B1
定着レベル ⇒ B2

□ A2における例

- À mon avis, il est très bon que des personne âgées **habitent** ensemble. (A2_002_s)
- Je pense donc il faut que l'on **discute** plutôt sur les végétariens qui ne mangent que... (A2_007_s)
- je souhaite que beaucoup de pays **accepte** la sieste pour travailler plus efficace ! (A2_009_s)

⇒ 接続法を意識して選択したか明確に判断できない

□ B1における例

- il est un peu difficile que l'homme **aient** de métiers et des professions ...(B1_007_s)
- bien qu'il ait bon poste à entreprise, ... (B1_010_s)
- Je doute que tu ne **fasse** pas le sport dans la vie quotidien, mais... (B1_014)

⇒ 明確な接続法の形式を確認

分析結果 – (RQ1) 法・時制の産出/定着レベル

	A2	B1	B2	C
直説法現在形	48	49	50	50
不定法現在形	34	46	46	50
直説法複合過去形	18	20	31	24
近接未来形	7	10	11	5
直説法単純未来形	6	12	17	24
直説法半過去形	6	12	17	20
条件法現在形	4	14	13	20
命令法現在形	3	8	8	8
過去分詞	6*	7	19	19
接続法現在	3*	3	14	16
ジェロンドイフ現在	1	4	9	10
不定法過去	0	0	6	1
条件法過去	0	0	3	1

- 数値は各形態が産出されたテキスト数 (/50)
- 産出レベル … 
- 定着レベル … 
- 「*」 … 文脈確認を経てレベル定義が見直された箇所

分析結果 – (RQ1) 法・時制の産出/定着レベル

	A2	B1	B2	C
直説法現在形	48	49	50	50
不定法現在形	34	46	46	50
直説法複合過去形	18	20	31	24
近接未来形	7	10	11	5
直説法単純未来形	6	12	17	24
直説法半過去形	6	12	17	20
条件法現在形	4	14	13	20
命令法現在形	3	8	8	8
過去分詞	6*	7	19	19
接続法現在	3*	3	14	16
ジェロンドイフ現在	1	4	9	10
不定法過去	0	0	6	1
条件法過去	0	0	3	1

- 数値は各形態が産出されたテキスト数 (/50)
- 産出レベル … 
- 定着レベル … 
- 「*」 … 文脈確認を経てレベル定義が見直された箇所

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ①直説法半過去

	A2	B1	B2	C
直説法半過去形	6	12	17	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ A2

レベル	特徴
A2	être , avoir, faireに限定 / 主に過去の描写
B1	語彙の拡大 / 過去の習慣, 時制の一致
B2	語彙の拡大 / 複数人称にも拡張
C	仮定表現など

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ①直説法半過去

	A2	B1	B2	C
直説法半過去形	6	12	17	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ A2

レベル	特徴
A2	être, avoir, faire に限定 / 主に過去の描写
B1	語彙の拡大 / 過去の習慣, 時制の一致
B2	語彙の拡大 / 複数人称にも拡張
C	仮定表現など

○ A2の使用例 (6テキスト, 10例)

- *Le prof était très sympa. (A2_013_p)*
- *Le bureau de ma travailles était très jolli. (A2_016_p)*
- *Je faisais un piano un peu, ... (A2_042_a)*

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ①直説法半過去

	A2	B1	B2	C
直説法半過去形	6	12	17	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ A2

レベル	特徴
A2	être , avoir, faireに限定 / 主に過去の描写
B1	語彙の拡大 / 過去の習慣, 時制の一致
B2	語彙の拡大 / 複数人称にも拡張
C	仮定表現など

○ B1の使用例 (12テキスト, 23例)

- *je voulais aller a Bretagne (B1_020_p)*
- *Quand j'étais petite, j'adorais ce type de restaurant (B1_024_f)*
- *..., car j'ai entendu dire que le français rassemblait* (->ressemblait) à l'anglais. (B1_015_p)*
- *J'ai trouvé que c'était bien les pièces que tu as choisies. (B1_024_f)*

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ①直説法半過去

	A2	B1	B2	C
直説法半過去形	6	12	17	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ A2

レベル	特徴
A2	être , avoir, faireに限定 / 主に過去の描写
B1	語彙の拡大 / 過去の習慣, 時制の一致
B2	語彙の拡大 / 複数人称にも拡張
C	仮定表現など

○ B2の使用例 (17テキスト, 31例)

- *les enfants étaient triste* (B2_014_p)
- *nous avons vraiment hâte d'aller en Angleterre.* (B2_016_p)

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ①直説法半過去

	A2	B1	B2	C
直説法半過去形	6	12	17	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ A2

レベル	特徴
A2	être , avoir, faireに限定 / 主に過去の描写
B1	語彙の拡大 / 過去の習慣, 時制の一致
B2	語彙の拡大 / 複数人称にも拡張
C	仮定表現など

○ Cの使用例 (20テキスト, 39例)

- *Si j'étais à votre place, je crois que je ferais le même choix que le vôtre. (C_045_a)*
- *Donc, si j'étais à votre place, je ferais la même chose. (C_050_a)*

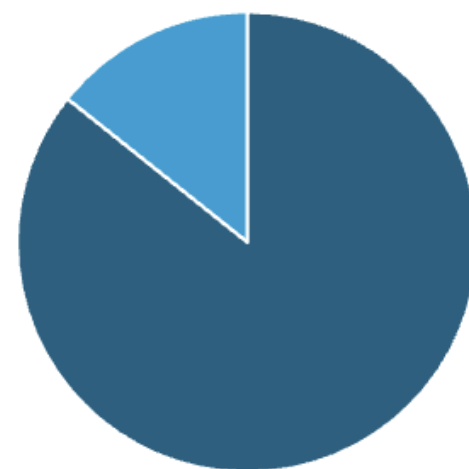
分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ②条件法現在

	A2	B1	B2	C
条件法現在形	4	14	13	20

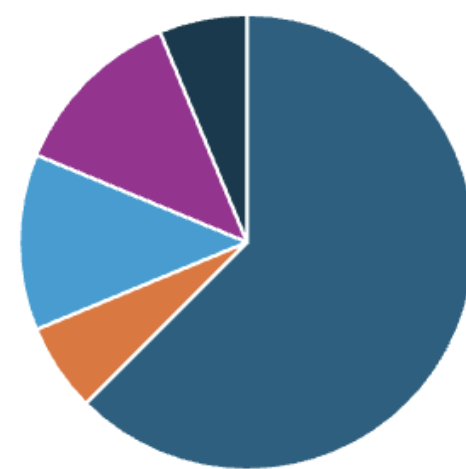
出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ B1

- 1) 丁寧表現 (**vouloir, aimer**) --- je **voudrais** / j'**aimerais**
- 2) 丁寧表現 (**その他**) --- **pourrais**-tu / ça te **dirait** ...?
- 3) 助言 --- il **faudrait** / on **devrait**
- 4) 推定 --- ce **serait** bien / on **dirait** que
- 5) 仮定 --- si j'avais ..., je **ferais**...
- 6) 過去から見た未来 --- il a dit qu'il **viendrait**
- 7) その他

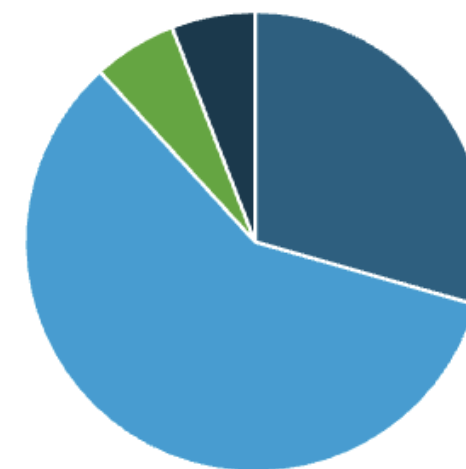
A2



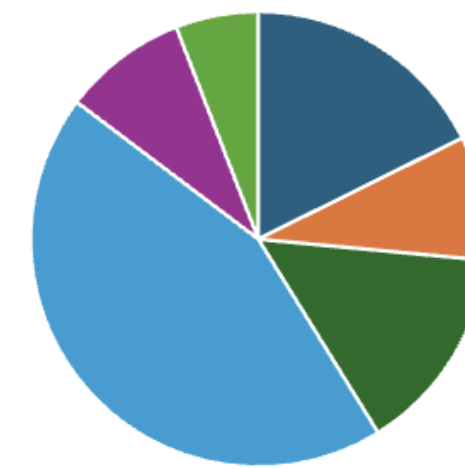
B1



B2



C

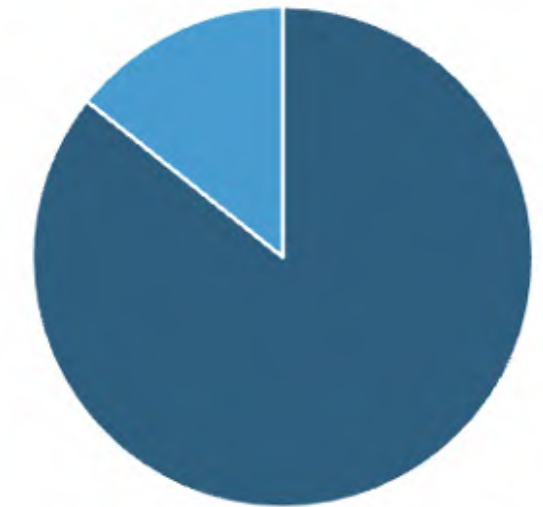


分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ②条件法現在

	A2	B1	B2	C
条件法現在形	4	14	13	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ B1

レベル	特徴
A2	典型的な丁寧表現にほぼ限定
B1	推量・仮定の用法が出現
B2	典型的な丁寧表現 < 推量
C	助言・過去から見た未来



○ A2の使用例（4テキスト7例）

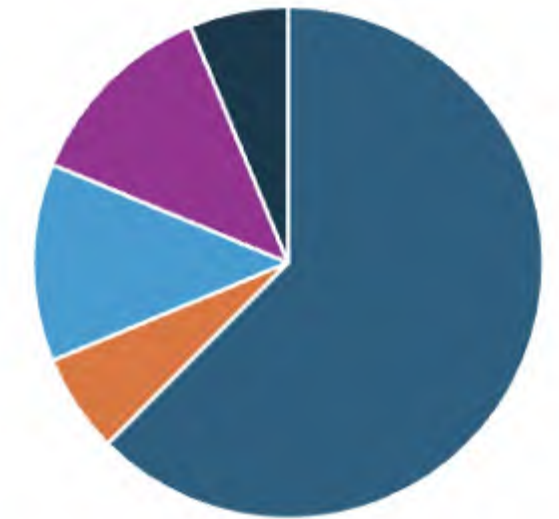
- Je voudrais partager ma part de vie avec vous. (A2_011_p)
- J'aimerais passer ce week-end avec vous (A2_024_f)
- On voudrait essayer jouer au tennis ensemble aussi ! (A2_024_f)
- J'aimerais bien que vous participerez. (A2_024_f)
- Je voudrais vous proposer mon vélo en occasion. (A2_027_f)
- Je voudrais le vendre en 100 euros. (A2_027_f) ⇒ **丁寧(avoir/vouloir)**
- En conclusion, tout les façons en regardant la publicité comme ça sur la télévision pourrait créer un gros problème de santé dans la future. (A2_030_a) ⇒ **推定**

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ②条件法現在

	A2	B1	B2	C
条件法現在形	4	14	13	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ B1

レベル	特徴
A2	典型的な丁寧表現にほぼ限定
B1	推量・仮定の用法が出現
B2	典型的な丁寧表現 < 推量
C	助言・過去から見た未来



○ B1の使用例（14テキスト16例）

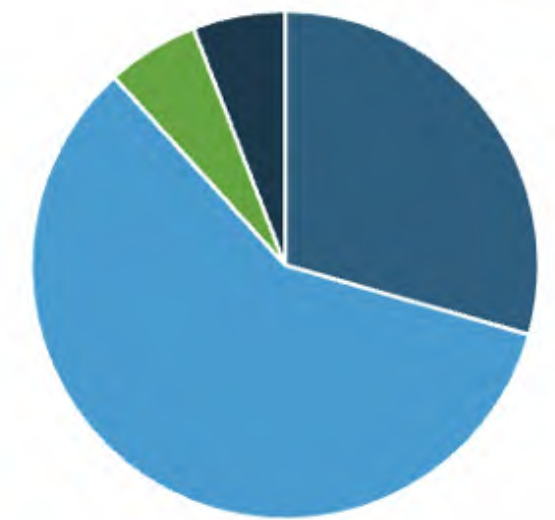
- *Si femme travaillaient comme des responsables de grandes entreprise, il n'y aurait pas de problème comme cela. (B1_007_s) ⇒ 仮定*
- *D'autres activités seraient aussi intéressante. (B1_022_f) ⇒ 推定*
- *Si ça ne dérange pas trop, pourrais-tu venir et s'occuper ma jardin deux fois par semaine ? (B1_027_f) ⇒ 丁寧(その他)*

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ②条件法現在

	A2	B1	B2	C
条件法現在形	4	14	13	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ B1

レベル	特徴
A2	典型的な丁寧表現にほぼ限定
B1	推量・仮定の用法が出現
B2	典型的な丁寧表現 < 推量
C	助言・過去から見た未来



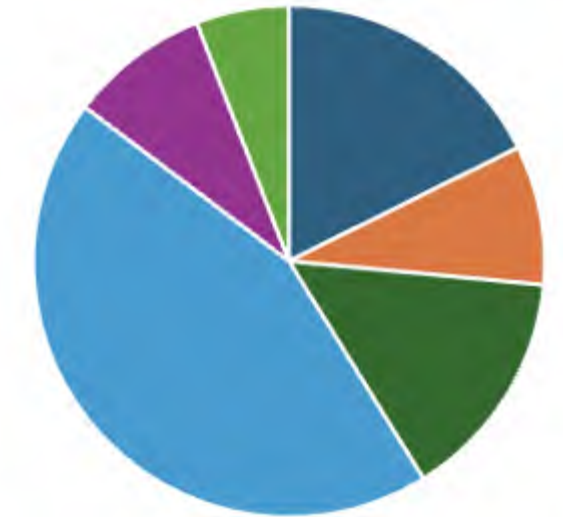
- B2の使用例（13テキスト17例）
 - *Oui, je fais du yoga, ce serait trop bien si tu viens avec moi!* (B2_024_f)
 - *Alors quelle option serait une solution plus adaptée à notre société?* (B2_005_s)
 - *Grâce aux ces lumières, on peut faire des courses malgré la minuit, et elles pourraient diminuer le risque d'avoir l'accident.* (B2_002_s) ⇒ 推定

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ②条件法現在

	A2	B1	B2	C
条件法現在形	4	14	13	20

出現レベル ⇒ A2
定着レベル ⇒ B1

レベル	特徴
A2	典型的な丁寧表現にほぼ限定
B1	推量・仮定の用法が出現
B2	典型的な丁寧表現 < 推量
C	助言・過去から見た未来



○ Cの使用例（20テキスト34例）

- *D'abord, il faudrait déménager dans un plus grand bureau (C_002_s) ⇒ 助言*
- *Ça te dirait d'y aller avec moi ? (C_032_f) ⇒ 丁寧（その他）*
- *Si j'étais à votre place, je crois que je ferais le même choix que le vôtre. (C_045_a) ⇒ 仮定*
- *J'ai entendu dire qu'il y aurait une démonstration des arts martiaux (C_027_f) ⇒ 過去から見た未来*

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ③接続法

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

出現レベル ⇨ B1
定着レベル ⇨ B2

レベル	特徴
A2	-
B1	限られた動詞（avoir, être, faire）、不安定な使用（直説法 vs 接続法）
B2	様々な動詞で柔軟な使用、使用場面の多様化
C	多様で正確な使用

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ③接続法

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

出現レベル ⇨ B1
定着レベル ⇨ B2

レベル	特徴
A2	-
B1	限られた動詞 (avoir, être, faire)、不安定な使用 (直説法 vs 接続法)
B2	様々な動詞で柔軟な使用、使用場面の多様化
C	多様で正確な使用

○ B1の使用例 (3テキスト3例)

- *il est un peu difficile que l'homme aient de métiers et des professions ...* (B1_007_s)
- *bien qu'il ait bon poste à entreprise, je ne voudrais pas ...* (B1_010_s)
- *Je doute que tu ne fasse pas le sport dans la vie quotidien* (B1_014_p)

-
- *Je suis sûre que des plants et des fleurs dans ma jardin soient très sèches...* (B1_027_f)
 - *Je souhaite que ton travail s'est bien passé.*
 - *C'était dommage que tu n'étais pas là.*
 - *Alors je te propose que l'on va le participer ensemble.*

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ③接続法

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

出現レベル ⇨ B1
定着レベル ⇨ B2

レベル	特徴
A2	-
B1	限られた動詞 (avoir, être, faire)、不安定な使用 (直説法 vs 接続法)
B2	様々な動詞で柔軟な使用、使用場面の多様化
C	多様で正確な使用

○ B2の使用例 (14テキスト15例)

- *pour qu'elles soient réintégrées dans la société.* (B2_006_s)
- *Tu es la meilleure cuisinière que je connaisse.* (B2_023_f)
- *Je suis très contente que tu puisses venir à ma ville, Rouen !* (B2_027_f)
- *malgré que sa santé ne soit pas bonne,* (B2_026_p)

分析結果 – (RQ2) 質的な発達 ③接続法

	A2	B1	B2	C
接続法現在	3*	3	14	16

出現レベル ⇨ B1
定着レベル ⇨ B2

レベル	特徴
A2	-
B1	限られた動詞 (avoir, être, faire)、不安定な使用 (直説法 vs 接続法)
B2	様々な動詞で柔軟な使用、使用場面の多様化
C	多様で正確な使用

○ Cの使用例 (16テキスト26例)

- *à condition que toute la famille **soit** d'accord et prête.* (C_001_s)
- *pour que vous **connaissiez** bien où se trouvent les salles de classe, le caféteria, la bibliothèque, etc.* (C_040_f)

○ 接続法過去の使用例 (2テキスト2例)

- *C'est vraiment dommage que tu n'**aies** pas **pu** venir.* (C_026_p)
- *Je comprends très bien d'ailleurs que vous **ayez eu** envie de quitter Berlin.* (C_045_a)

発表の流れ

1. 研究背景
 2. リサーチクエスチョン
 3. 研究手法
 4. 分析結果
 5. **まとめと考察**
-
6. 今後の課題

RQ1) 各法・時制はどのCEFRレベルで使用され始めるのか？

	A2	B1	B2	C
直説法現在形				
不定法現在形				
直説法複合過去形				
近接未来形				
直説法単純未来形				
直説法半過去形				
条件法現在形				
命令法現在形				
過去分詞				
接続法現在				
ジェロンドゥフ現在				
不定法過去				
条件法過去				

各レベルにおける学習者の使用実態

⇒ 次のレベルに向けて重点的に取り組む項目の明確化

RQ2) どのような質的発達が見られるのか？

➤ **語彙的発達**

頻度の高い少数の動詞 → より多様な動詞

➤ **形態的発達**

限られた人称 → 複数人称を含む活用の拡大

➤ **機能的発達**

定型的・限定的な用法 → 多様で複雑な用法

⇒ 早い段階で出現した形式も、CEFRレベルの上昇とともに質的に発達

まとめと考察

RQ1) 各法・時制はどのCEFRレベルで使用され始めるのか？

RQ2) どのような質的発達が見られるのか？

法・時制	A2	B1	B2	C
直説法現在形				
不定法現在形				
直説法複合過去形				
近接未来形				
直説法単純未来形				
直説法半過去形	頻出動詞：être, avoir, faire “était”を使った描写	過去の習慣 時制の一致	複数人称での使用	仮定法での使用
条件法現在形	定型的な丁寧表現 1, 3人称単数	推測, 仮定 その他の人称への広がり	推測 > 丁寧表現	助言, 過去から見た未来, その他の丁寧表現
命令法現在形				
過去分詞				
接続法現在		不安定な使用 (ind. vs subj.) 頻出動詞：avoir, être, faire	柔軟な使用 文脈の広がり	多様な文脈での使用 使用の正確さ
ジェロンディフ現在				
不定法過去				
条件法過去				

発表の流れ

1. 研究背景
 2. リサーチクエスチョン
 3. 研究手法
 4. 分析結果
 5. まとめと考察
 6. **今後の課題**
-

今後の課題

- その他の法・時制に関する質的分析
- A1レベルの学習者データの分析

→ CEFRに基づく日本人学習者の法・時制形式の発達に関する包括的なプロフィール

参考文献

- Beacco, J. C., Bouquet, S., & Porquier, R. (2004). *Niveau B2 pour le français: Un référentiel*. Paris: Didier.
- Beacco, J. C., de Ferrari, M., Lhote, G. & Tagliante, C. (2005). *Niveau A1.1 pour le français : Référentiel et certification (DILF) pour les premiers acquis en français*. Paris: Didier.
- Beacco, J. C., & Porquier, R. (2007). *Niveau A1 pour le français : Un référentiel*. Paris: Didier.
- Beacco, J. C., Lepage, S., Porquier, R., & Riba, P. (2008). *Niveau A2 pour le français : Un référentiel*. Paris: Didier.
- Beacco, J. C., Blin, B., Houles, E., Lepage, S., & Riba, P. (2011). *Niveau B1 pour le français : Un référentiel*. Paris: Didier.
- Conseil de l'Europe. (2001). *Cadre européen commun de référence pour les langues : apprendre, enseigner, évaluer*. Paris: Didier. (<https://rm.coe.int/16802fc3a8>, 2026年7月23日参照)
- Grevisse, M., & Goosse, A. (2016). *Le bon usage*, Louvain-la-Neuve: De Boeck Supérieur.
- North, B. (2015). *Inventaire linguistique des contenus clés des niveaux du CECRL*, Sèvres : CIEP. (https://www.eaquals.org/wp-content/uploads/Inventaire_ONLINE_full.pdf, 2026年7月23日参照)
- Guillaume, B. (2021). Graph Matching and Graph Rewriting: GREW tools for corpus exploration, maintenance and conversion. *Proceedings of the 16th Conference of the European Chapter of the Association for Computational Linguistics: System Demonstrations*, pp.168-175.
- Riba, P. (2016). *Niveaux C1/C2 pour le français : Éléments pour un référentiel*. Paris: Didier.
- Volodina, E., Alfter, D., & Tiedemann, T. L. (2024). Profiles for Swedish as a Second Language: Lexis, Grammar, Morphology. *Huminfra Conference: HiC 2024*. pp. 10-19.
- Wilkens, R., Pintard, A., Alfter, D., Folny, V., & François, T. (2023). TCFLE-8: a corpus of learner written productions for French as a foreign language and its application to automated essay scoring. *Proceedings of the 2023 Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing*, pp.3447-3465.
- Yamaguchi, N., Alfter, D., Sugiyama, K., & François, T. (2022). Towards a Verb Profile: distribution of verbal tenses in FFL textbooks and in learner productions. *Proceedings of the 11th workshop on NLP for computer assisted language learning*, pp.123-142.

URL :

- English Profile (<https://englishprofile.org/>, 2026年7月23日参照)
- CEFR-J (<https://www.cefr-j.org/cefrj.html>, 2026年7月23日参照)

ご清聴ありがとうございました